共通テスト対策講座 歴史総合，日本史探究

共通テストはあくまでも「学習指導要領の範囲内」＝教科書レベルからの出題です。また、全問マークセンス方式で実施されることから、歴史系を選択した際の大きな悩みになる「漢字の暗記」が必要ありません。不穏・不毛な感じがしない、常識的なテストなんです。

怖れすぎず、油断せず試験会場に向かってもらうための講座がこれから始まります。とにかく解いて、視聴してみてください。具体的な学力にせよ、精神的な力にせよ、必ず何かが変わります。

怖くても、動こう！

伊藤賀一

目　次

本講座の受け方（予習・受講・復習）……p3
第 1 講　2025 年度 試作問題 第 1 問……p4
第 2 講　2025 年度 試作問題 第 2 問……p18
第 3 講　2025 年度 試作問題 第 3 問……p26
第 4 講　2025 年度 試作問題 第 4 問……p34
第 5 講　2025 年度 試作問題 第 5 問……p42
第 6 講　2025 年度 試作問題 第 6 問……p50

本講座の受け方（予習・受講・復習）

1，予習の仕方

「ちゃんと勉強してから」等と考えず（それじゃあいつまでたってもスタートできない)、いきなり問題を解いてください。

その際、「何も見ずに」解くことが重要です。その後の解説で、答えは出てきます。教科書や図説資料のチラ見とか、ズルをしないように。そういうクセをつけると力がつきにくいのです。

2，講義の受け方

黒板のチョークの色は、基礎が黄、標準が白、発展〔応用〕が赤です。黄と白の知識があれば解ける問題がほとんどですが、思考の過程で赤の知識があったほうが便利な場合もありますので。

必要ないと思うのであまり板書をしませんが、まとまりのある事前板書を写すときは、画面を一時停止したほうが焦らずに済みます。

3，復習の仕方

受講後に不安な部分があれば、教科書や用語集や図説資料集を見ながら、調べたい部分をサッと調べてください。それだけで OK です。これは問題演習授業＝解説が復習みたいなもの、なので、１回ごとの復習は特別必要ありません。

全体の基礎固めや苦手分野は、通年講座の基礎講座でまかなっています。

第１講　2025年度 試作問題 第1問

第１問　歴史総合の授業で，「人やモノの移動とその影響」という主題を設定し，環太平洋地域を取り上げて，各班で発表をまとめた。二つの班の発表について述べた次の文章Ａ・Ｂを読み，後の問い（**問１～９**）に答えよ。（資料には，省略したり，改めたりしたところがある。）（配点　25）

Ａ　上原さんの班は，19 世紀の交通革命による世界の一体化の進行に関心を持ち，太平洋がそれとどう関わったかに着目して，調べたことを**パネル１**にまとめた。

パネル１

◇交通革命とは何か

・主に 1850 年代から 1870 年代にかけて進行した，世界の陸上・海上の交通体系の一大変革を指す。

・船舶・鉄道など交通手段の技術革新と，新しい交通路の開発とによって，移動の時間・距離の大幅な短縮と定期的・安定的な移動・輸送の確立とが実現した。

◇海路における交通革命の主役＝蒸気船

〈強み〉快速で，帆船と違って風向や海流などの自然条件に左右されにくい。

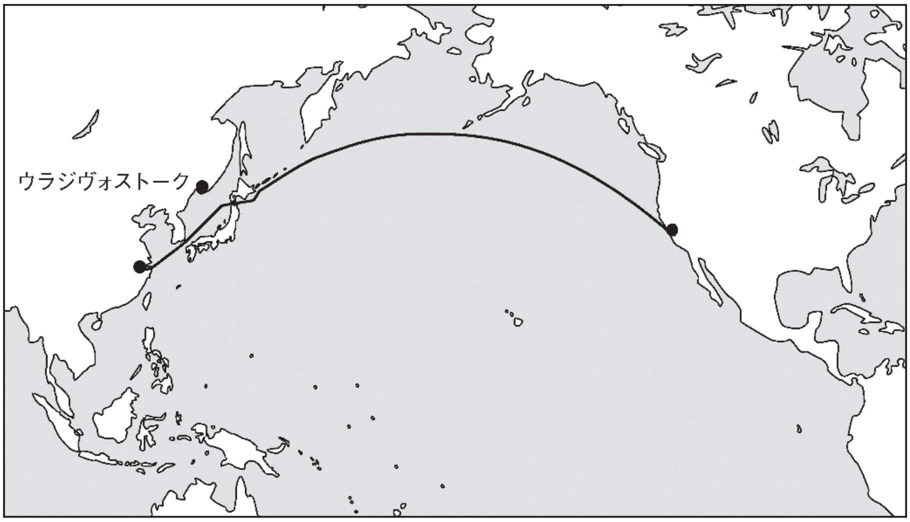
〈弱み〉燃料の［ア］の補給ができる寄港地が必要。

◇交通革命と太平洋

・18 世紀以来，ⓐ北太平洋には，欧米の船が海域の調査や物産の獲得，外交・通商の交渉などを目的として進出していた。しかし，19 世紀半ばまで，蒸気船を用いて太平洋を横断する定期的な交通は確立していなかった。

・ⓑアメリカ合衆国は，中国貿易の拡大を目指して太平洋への進出を図った。後の**図１**を見ると，代表的な貿易港である［イ］まで，アメリカ合衆国から蒸気船で最短距離で行くには，必ず日本周辺を経由することが分かる。ⓒアメリカ合衆国が，航路の安全を確保し，かつ蒸気船が往復の航海で必要とする［ア］を入手するためには，日本と関係を結ぶ必要があった。

図１　当時考えられていた太平洋横断航路



→1867年，日米間の太平洋横断定期航路が開設される。

まとめ：世界周回ルートの成立で，ⓓ1870年代には世界の一体化が大きく進展。

問１　文章中の空欄 ア に入る語句**あ・い**と，下線部ⓒを目的になされた出来事X～Zとの組合せとして正しいものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 1

ア に入る語句

あ　石　油　　　**い**　石　炭

下線部ⓒを目的になされた出来事

X　モンロー教書（モンロー宣言）の発表

Y　日本に対するハル＝ノートの提示

Z　日米和親条約の締結

①　あ ― X　　②　あ ― Y　　③　あ ― Z

④　い ― X　　⑤　い ― Y　　⑥　い ― Z

問２　下線部ⓐに関連して，上原さんの班は，ロシアがアロー戦争（第２次アヘン戦争）の際に清から沿海州を獲得して，そこに**図１**中のウラジヴォストークを築いて拠点としたことを知り，ロシアの太平洋方面への進出に関する資料を集めた。ロシアによる**沿海州の獲得時期**と**資料１・２**に書かれている内容とについて，古いものから年代順に正しく配列したものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。［ 2 ］

資料１

一　今後，樺太全島はことごとくロシア帝国に属し，宗谷海峡を両国の境界とする。
二　ロシア国皇帝陛下は，引き換えに千島列島の全ての権利を日本国皇帝陛下に譲り，今後は千島全島は日本に属する。

資料２

ロシアから使節が派遣されてきたのは，女帝エカチェリーナ２世の使節ラクスマンが遣わされ，幕府に漂流民を送り届けるために来航してきたことなどが始まりであった。

① **資料１ ― 資料２ ― 沿海州の獲得**
② **資料１ ― 沿海州の獲得 ― 資料２**
③ **資料２ ― 資料１ ― 沿海州の獲得**
④ **資料２ ― 沿海州の獲得 ― 資料１**
⑤ **沿海州の獲得 ― 資料１ ― 資料２**
⑥ **沿海州の獲得 ― 資料２ ― 資料１**

問３　上原さんの班は下線部ⓑに興味を持ち，当時アメリカ合衆国政府を代表した軍人の報告書である**資料３**を見つけた。文章中の空欄 [イ] に入る語句**あ・い**と，**パネル１**及び**資料３**から類推できる事柄X・Yとの組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。[３]

資料３

アメリカ合衆国とメキシコとの戦争終結の条約によって，カリフォルニア地方は合衆国に譲渡された。同地方が太平洋に面する地の利から，人々の関心は自然と商業分野の拡大に向けられた。（中略）もし，東アジアと西ヨーロッパとの間の最短の道が（この蒸気船時代に）アメリカ合衆国を横切るならば，わが大陸が，少なくともある程度は世界の交通路となるに違いないことは十分明白であった。

[イ] に入る語句

あ　上　海　　　　**い**　広　州

パネル１及び資料３から類推できる事柄

X　アメリカ合衆国は，自国がヨーロッパから東アジアへの交通路になることを警戒している。

Y　アメリカ合衆国の見通しが実現するためには，大陸横断鉄道の建設と太平洋横断航路の開設との両方が必要である。

① あ ― X
② あ ― Y
③ い ― X
④ い ― Y

問４　上原さんの班は，発表内容をさらに深めるため，下線部ⓓの内容に当てはまる歴史上の事柄について調べた。その事柄として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［４］

① ドルを基軸通貨とする国際通貨体制の成立

② 自由貿易のための世界貿易機関(ＷＴＯ)の設立

③ ヨーロッパ各国の東インド会社が主導したアジア貿易

④ 海底電信ケーブルの敷設が進んだことによる通信網の拡大

B　佐藤さんの班は，環太平洋地域における人の移動に関心を持ち，沖縄県からの移民・出稼ぎがどのように広がっていったのかに着目して，調べたことを**パネル２～４**にまとめた。

パネル２

移民・出稼ぎの始まり

・沖縄県からの海外移民は1899年のハワイ移民が最初。その後，中南米諸国や東南アジアなどへも広がった。

・第一次世界大戦後の不況で沖縄経済は大打撃を受け，移民が急増。その主要な行先は南洋諸島。大阪など本土への出稼ぎも急増した。

・沖縄からの移民先と重なるように，ⓔ大阪商船の定期航路が南北アメリカ大陸へも拡大。沖縄から大阪への定期航路は，1925年には大阪商船が独占した。

パネル３

太平洋戦争(アジア太平洋戦争)の影響

・ⓕ移民先である南洋諸島や東南アジアが戦場となった。多くの沖縄県出身者が犠牲となったが，生き残った移民の多くは，戦後沖縄へとⓖ引き揚げた。

・ハワイや中南米諸国への移民の多くは，そのまま現地にとどまった。

・本土への出稼ぎ者は，阪神間・京浜間などに集住地域を形成しており，定住する人たちも多かった。

パネル４

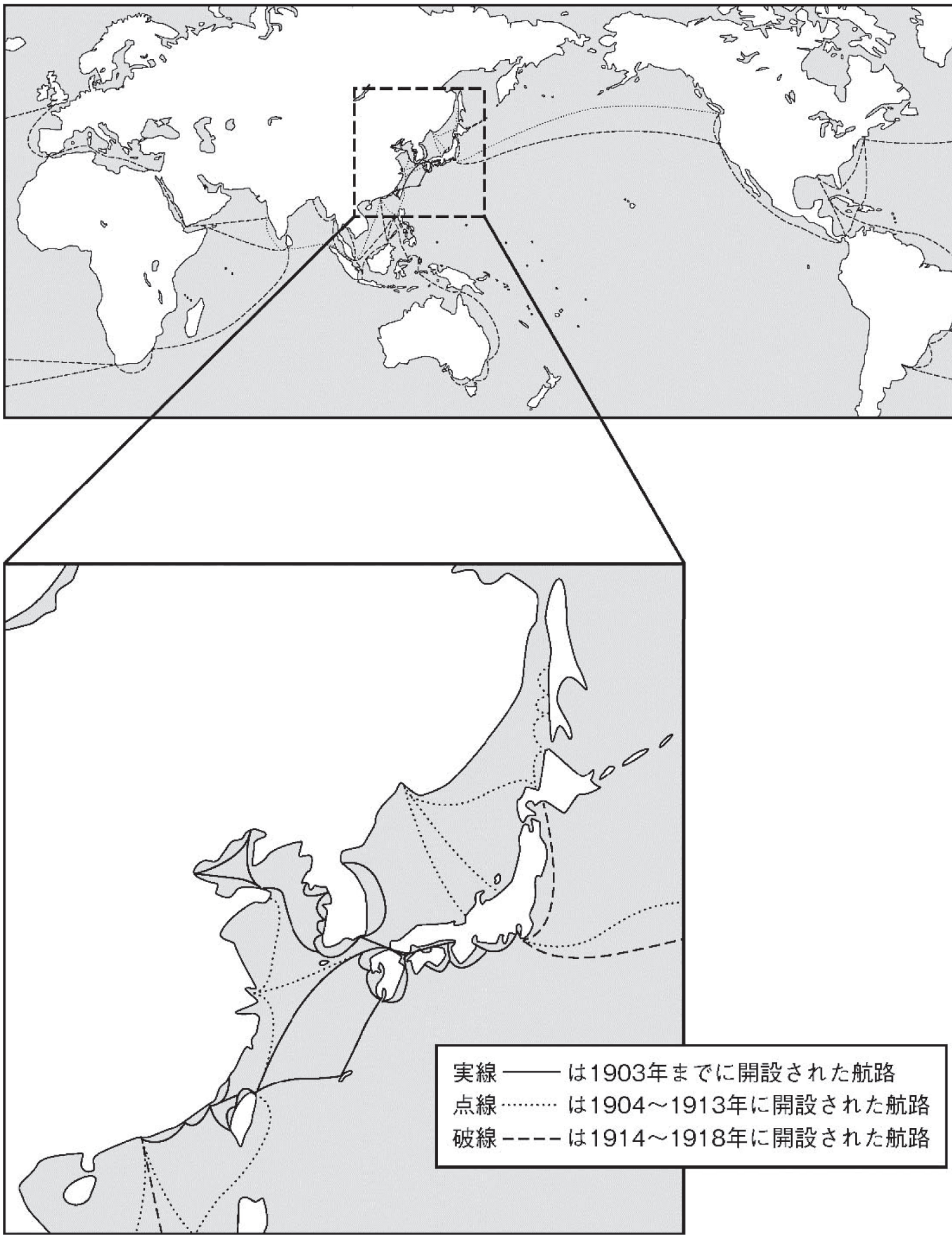
米軍による占領と新たな移民・集団就職

・沖縄戦によって沖縄は日本本土と切り離され，米軍に占領された。ⓗ南洋諸島も，戦後アメリカ合衆国の統治下に置かれ，数々の核実験が実施された。その際，島民たちは自分たちの住む島から移住を強いられた。

・1950年代には，米軍が，占領下の沖縄で基地を拡張。強制的に土地を接収された人々の一部は，南米などに移民した。1960年代には，日本本土に向けて，日本復帰前の沖縄からも集団就職が実施された。

問５　佐藤さんの班は，海外への航路の拡大に興味を持ち，下線部ⓔについて，大阪商船の主な定期航路を時期別に示した**図２**を見つけた。**図２**について述べた文として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 5

図２



① 1903 年までの定期航路は，当時の日本が領有していた植民地の範囲にとどまっていたと考えられる。

② 南樺太は，日本の領土となったので，定期航路に加えられたと考えられる。

③ 1913 年以前の中南米諸国への移民は，移民先まで定期航路を利用していたと考えられる。

④ 第一次世界大戦中にスエズ運河が開通したことによって，ヨーロッパまで定期航路を延ばしたと考えられる。

問６　佐藤さんの班は，移民先となった地域の歴史にも興味を持った。下線部ⓕの地域の歴史に関して述べた次の文**あ**・**い**について，その正誤の組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 6

あ　ドイツ領南洋諸島は，カイロ会談の結果，日本の委任統治領となった。

い　フィリピンは，太平洋戦争が始まった時，アメリカ合衆国の植民地であった。

① **あ** ― 正　**い** ― 正
② **あ** ― 正　**い** ― 誤
③ **あ** ― 誤　**い** ― 正
④ **あ** ― 誤　**い** ― 誤

問７　佐藤さんの班は，下線部ⓖに関連する資料として，太平洋戦争（アジア太平洋戦争）後における，日本本土への国・地域別の復員・引揚げ者数をまとめた表を見つけた。この**表**について述べた文として**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。 7

表　日本本土への国・地域別の復員・引揚げ者数(単位：千人)

国・地域	軍人・軍属の復員	民間人の引揚げ
ソ　連	454	19
満　洲	53	1,219
朝　鮮	207	713
中　国	1,044	497
台　湾	157	322
東南アジア	807	85
オーストラリア	130	8
沖　縄	57	12
総　計	3,107	3,190

（2015 年３月現在，厚生労働省まとめ）

（注）　いずれの国・地域も，99.7％以上が 1956 年までに復員・引揚げを終えている。

（注）　一部の国・地域を省略したため，各欄の合計と「総計」の数字とは一致しない。

①　シベリアに抑留された者の復員数と，満洲・中国からの復員数を合わせると，復員数全体の３分の２を超えていることが読み取れる。

②　引揚げ者数が復員数を上回っている国・地域は，日本が植民地としたり事実上支配下に置いたりしたところであることが読み取れる。

③　東南アジアからの復員が中国に次いで多いのは，太平洋戦争中に日本軍が占領したからであると考えられる。

④　沖縄から日本本土への引揚げ者がいたのは，沖縄がアメリカ合衆国の軍政下に置かれたからであると考えられる。

問８　下線部ⓗに関連して，南洋諸島の一つであるマーシャル諸島では，戦後にアメリカ合衆国によって水爆実験が行われた。佐藤さんの班は，この実験をきっかけに科学者たちによって1955年に発表された「ラッセル＝アインシュタイン宣言」にも興味を持った。その一部である**資料４**から読み取れる事柄**あ**～**え**について，正しいものの組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。　8

資料４

> そのような爆弾が地上近く, あるいは水中で爆発すれば, 放射能を帯びた粒子が上空へ吹き上げられます。これらの粒子は死の灰や雨といった形で次第に落下し, 地表に達します。日本の漁船員と彼らの漁獲物を汚染したのは, この灰でした。（中略）
>
> 軍備の全般的削減の一環として核兵器を放棄するという合意は, 最終的な解決に結び付くわけではありませんが, 一定の重要な目的には役立つでしょう。
>
> 第一に, 緊張の緩和を目指すものであるならば何であれ，東西間の合意は有益です。第二に, 核兵器の廃棄は，相手がそれを誠実に履行していると各々の陣営が信じるならば, 真珠湾式の奇襲の恐怖を減じるでしょう。（中略）それゆえに私たちは, あくまで最初の一歩としてではありますが, そのような合意を歓迎します。

あ　核の平和利用を推進していこうとする姿勢が読み取れる。

い　核兵器の放棄という合意が，軍備の全般的削減に役立つと考えていることが読み取れる。

う　第二次世界大戦の経験を基に，対立する相手陣営側の核兵器の廃棄を一方的に先行させようとする姿勢が読み取れる。

え　第五福竜丸の被曝（ひばく）を，事例として取り上げていることが読み取れる。

①　**あ・う**　　②　**あ・え**　　③　**い・う**　　④　**い・え**

問９　上原さんの班と佐藤さんの班は，環太平洋地域における人やモノの移動とその影響についての発表を踏まえ，これまでの授業で取り上げられた観点に基づいて，さらに探究するための課題を考えた。課題**あ**・**い**と，それぞれについて探究するために最も適当と考えられる資料W～Zとの組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。［ 9 ］

さらに探究するための課題

あ　自由と制限の観点から，第二次世界大戦後における太平洋をまたいだ経済の結び付きと社会への影響について探究したい。

い　統合と分化の観点から，海外に移住した沖縄県出身者と移住先の社会との関係について探究したい。

探究するために最も適当と考えられる資料

W　アメリカ合衆国における，日本からの自動車輸入台数の推移を示した統計と，それを批判的に報じたアメリカ合衆国の新聞の記事

X　アジア太平洋経済協力会議（APEC）の参加国の一覧と，その各国の１人当たり GDP を示した統計

Y　沖縄県出身者が海外に移住する際に利用した主な交通手段と，移住に掛かった費用についてのデータ

Z　移民が移住先の国籍を取得する条件と，実際に移住先で国籍を取得した沖縄県出身者の概数

①　**あ** ― W　　**い** ― Y
②　**あ** ― W　　**い** ― Z
③　**あ** ― X　　**い** ― Y
④　**あ** ― X　　**い** ― Z

第 1 講　2025年度 試作問題 第 1 問　解答

(全大問合計で 100 点満点)

問題番号 (配点)	設　問	解答番号	正　解	配　点
第 1 問 (25)	1	1	6	3
	2	2	4	3
	3	3	2	3
	4	4	4	3
	5	5	2	2
	6	6	3	2
	7	7	1	3
	8	8	4	3
	9	9	2	3